

令和2年度 第1回学校運営会議（外部委員）

日時：令和2年10月15日（木）

午後2時～

場所：4階 会議室

1 開 会

(1) 学校長あいさつ

(2) 出席者紹介

2 報 告

(1) 学校概要（学生の状況）について・・・・・・・・・・資料1

(2) 自己評価報告書について・・・・・・・・・・資料2

(3) 新型コロナウイルス対策の状況について・・・・・・・・・・資料3

3 学校運営に関する質疑及び意見交換

4 その他

【次回の予定】

日 時：令和3年2月19日（金）午前10時～

場 所：横浜市病院協会看護専門学校 4階 会議室

令和2年度「第1回学校運営会議」議事録

開催日時：令和2年10月15日（木） 14時～15時

開催場所：横浜市病院協会看護専門学校 4階 会議室

出席：委員 佐々木 晶世（横浜市立大学医学部看護学科講師）

鈴木 美智子（横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター看護部長）

伴 真理子（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院看護部長）

川上 純子（横浜栄共済病院看護部長）

小川 亨（横浜市医療局情報企画担当課長）

事務局 細川 治学校長、石川 崇子副学校長、岡ノ谷雅之事務部長、

工藤 敦子教務課長、佐藤ひづる事務係長

内容：

I 開会

- 1 学校長挨拶
- 2 出席者紹介

II 報告等

1 学校からの説明

(1) 学校の概要

学校概要及び在籍学生、卒業生の就職及び国家資格合格等の状況について説明。

(2) 自己評価報告

令和2年4月にまとめた「自己評価報告書（概要）」により、教職員による評価結果について説明。

(3) 新型コロナウイルス対策の状況について報告

令和2年度当初から現在までに、学校として行ってきた取組（学生の健康管理、授業、臨地実習、対策マニュアルの作成等）について説明。

2 学校運営に関する質疑応答・意見交換(主な意見)

ア 就労後の育成について

- ・ 採用した職員を見ていると、社会人基礎力とともに、基礎的な学力がないとなかなかついていけないことを実感している。臨床で必要な知識や技術は、入職してからでも身につけていける。学習の仕方と物事を追求していく姿勢は培ってきて欲しいと思う。
- ・ 看護観は、学生の段階で形成するのは難しい。就労後、経験を積んでいくことで形づくられてくるものなので、学校と病院が連携して作り上げていけると良いと思う。
- ・ 最近の採用で、30代、40代の人々の職場適応が難しいと感じることがある。年齢だけではなく家庭の状況、また、発達障害等で難しいと思うケースがある。やっていけそうと思っていたが、イメージ通りにいかない現実直面してやめていく人もいる。入職してからの仕事内容をイメージすることは難しいかもしれないが、自己の特徴も踏まえて就職先を選択していけるといい。

イ 臨地実習について

- ・ 新型コロナの対応で、大学の臨地実習について実習時間を8時間ではなく6時間に短縮し、残りの時間を学習の時間にしている。それはそれで、実施してみたら効果的な学習方法となっていると感じている。
- ・ 本当に看護師になりたくて入学してくる学生が減っているように感じる。看護師を目指して看護の道を選ぶ時代から、安定性や就職に困らない職業の一つとして選ぶ人が増えていないだろうか。そこから看護のプロ意識を学んで行くが、このような理由で看護師になった人は、打たれ弱く、周囲からのフォローをかなり要しながら育成していくことになる。何とかならないだろうか。
- ・ 実習期間中は、寝ないで自己学習を進めそのまま朝来て実習を頑張る、という時代ではなくなっている。臨地実習の時間を効率的に使うことが必要だと思う。
- ・ コロナ禍の中で、臨地実習の時間数が大幅に減少したり、臨地実習ができていない学校もある。そんな中、特に最終学年の学生は、就職後を不安に思っていると思う。しかし、一方では学校側が実践的な演習等を工夫して実施していることで、学生のスキルや能力は身につけている、と実感している。
- ・ 臨地実習を行うと学生の成長を感じる。現場でしか経験できないことがあるので、今回の取り組み方法の変更を受けて、時間を有効に使っていくのは今後も重要だと思う。
- ・ 学内での演習でいろいろなことを学習することもできているが、患者さんと相對することで、それはそれで得ることが多くあり、臨床の場でなくては経験できないことがあることも事実。
- ・ 臨地実習が少ない状況で、病院に就職する学生は不安を抱えていると思う。その中で、病院と学校が取組んでいることを意見交換できる場があると学生の不安がなくなると思う。
- ・ 臨床指導者会で指導者が新人教育プログラムをつくっているのも、そういう場で意見交換できれば良い。

ウ その他

- ・ 看護師の採用試験で、ネットによる面接を実施したが、今の学生はネットによる面接にも直ぐに適応できる能力をもっていて、素の本人を知ることができることも思った。
- ・ 市として看護人材の確保策に向けてアンケートを実施している。学生がやりたいと考えていることと、地域包括ケアシステム等との関連で、世の中が必要としている看護師とのギャップをどのように埋めていくのかが課題と思っている。
- ・ 市内の看護師の養成状況と就職状況を考えると、養成された看護師が市外に流れている状況がある。しかしその中で、この学校は、市内の病院に多くの人材を送っている。

3 その他

次回は、令和3年2月19日（金）午前10時～ 本校4階会議室で開催。

Ⅲ 校内施設見学

令和2年度 第2回学校運営会議（外部委員）

日時：令和2年2月
実施方法：書面による開催

1 報 告

(1) 学校関係者評価委員会報告書について・・・・・・・・・・資料1

(2) 令和3年度入学試験及び入学結果について・・・・・・・・・・資料2

(3) 今年度の新型コロナウイルス感染拡大防止対策について・・・資料3

(4) その他

令和3年度の会議開催予定

4月以降に。あらためて会議日程の調整をご依頼させていただきます。

令和2年度「第2回学校運営会議」記録

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、文書による会議としました。議題に関するご意見を伺い、記録とさせていただきます。

開催日時：令和3年3月

開催場所：横浜市病院協会看護専門学校 4階 会議室

出席：委員 佐々木 晶世（横浜市立大学医学部看護学科講師）

鈴木 美智子（横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター看護部長）

伴 真理子（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院看護部長）

川上 純子（横浜栄共済病院看護部長）

小川 亨（横浜市医療局情報企画担当課長）

事務局 細川 治学校長、池島 秀明副学校長、石川 崇子副学校長、

工藤 敦子教務課長、岡ノ谷雅之事務部長、佐藤ひづる事務係長

各報告事項について

1 学校関係者評価委員会報告書について

- ・多くの取組を実施、検討している中で、教員確保と実習指導体制づくりにおいて学校と病院の人事交流ができれば相互のメリットとなります。
- ・カリキュラム改正及びキャリア教育に関しては、地域に目を向けることができる看護師の育成が課題とされていることから、病院に勤務する看護師の今後のキャリアを考えるうえでも、また、学生にとっても学びとなると思います。
- ・開かれた学校運営の状況が理解でき、学校と臨床の連携と社会に対してのコンプライアンスが評価できました。
- ・著しく変化する社会や看護教育環境において、変化に柔軟に対応するためにも、公開性をもって取り組んでいくことが必要と考えます。
- ・コロナ禍だからではなく、将来を見据えて、学生への支援も含めて、IT化は進める必要があります。
- ・社会人経験のある学生が多い本校の取組として、離職率を下げるために、就職先の選択や離職予防策を就職先と連携できると良いと思います。
- ・年間を通じて新たな取組みにチャレンジしていると思います。地域との連携を目指して、区社協へ加入したことなど、新しい生活様式が求められる昨今において、とても重要だと思います。
- ・学校運営会議に参加して、学校の取組内容や努力が理解でき、看護師としてキャリア支援を行い、社会に貢献できる人材育成に取組む臨床現場の立場として、臨床と教育現場の連携がカギになると思いました。看護職員の人事交流など、組織を超えた仕組みづくりが課題と考えています。

2 令和3年度入学試験及び入学結果について

- ・本校の、学費や会員病院の支援など、新型コロナウイルスの影響も含め、経済的に厳しい方の進路先には適していると考えられます。
- ・入学試験の状況は、コロナ禍においても工夫して実施した学校説明会等の努力がうかがえます。
- ・ネット社会に柔軟に対応できている学生に向けて、入学案内のみならず、授業も含めたWEB環境の構築に力を入れていく必要があると考えます。
- ・福祉施設で働いている職員で、これから看護職になろうと希望する人がいます。社会人経験者の入学が多い学校として、今後も進路先になるように受け入れる環境を継続して欲しいと思います。
- ・厳しい状況の中で、看護職を希望する人が増えたのかと思いますが、修学支援制度をアピールするなど、ホームページの充実も含めて、様々なツールでの情報提供が必要だと思います。

3 今年度の新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

- ・次年度に向けて、実習時の空間の確保、昼食を挟まない実習の実施、臨地実習では患者様とのコミュニケーションやケアなどに集中する内容とし、記録や看護過程はオンラインの活用で実施するなど工夫が必要。また、eラーニングでのスキルチェックを定期的に行うなど、日常生活の中で様々な自粛を継続することはストレスがかかりますが、対策を遵守することで、安心して臨地実習に臨めると思います。
- ・実習時の学生によるインシデント対策（SNS、記録の管理等）に関する指導を行っていく必要があります。
- ・新型コロナウイルスへの対応は、患者様と直接接する機会を無くし、患者様から学ぶことが縮小されたという大きな課題を残したこととなりました。この環境下で可能性を模索しながら取り組んだことは評価できますが、看護実習に代わる学習を今後も研究して行って欲しいと思います。
- ・学校での対策を実施し、短期間でも臨地実習を実施できたことは、病院における感染症対策の実際と重要性を経験できる良い機会になったと思います。
- ・臨地実習における新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、病院側からの指示を待っていた学校もありましたが、学校側から積極的に取組、その内容を公表していくことも必要と思います。
- ・終息が見えない中で、対策については、学校側の意図が学生に十分伝わるよう、学生と密な情報共有と、状況に応じた臨機応変な対応を図られることを期待します。